

山村地域の医療を支える へき地医療拠点病院からの訪問診療

へき地における医師の不足と医療機能の低下が問題視されている中、多良木病院ではへき地拠点病院として、2地区の無医師診療所へ定期的に往診を行うとともに、医師確保のため、へき地医療支援機構の運営やへき地医療レベルの向上、実績に基づいた情報の提供など、へき地拠点病院の先進的展開を試みている。



背景と課題

常勤医師のいないへき地診療所

多良木町は、熊本県の南部、球磨郡の東部にあり、面積の約80%は山林原野が占める。医療上の位置づけとして、熊本県の二次医療圏(※)のうち最東南の球磨医療圏とされている。

球磨郡公立多良木病院は、多良木町のほか、水上村、湯前町、あさぎり町の4町村が開設者として責任を持つ自治体病院で、周辺地域を含む医療圏の人口はおおむね4万人である。同病院が管理運営するへき地診療所の所在地区の高齢化率は50%を超えている。また、へき地医療の拠点となっている地方の病院では医師不足の問題がより深刻化しており、へき地における医療機能の充足と医師の確保が急務の課題となっている。

※特殊な高度医療をのぞき、入院までの医療に対応できるように、市町村を超えて設定された圏域。医療法に基づき、都道府県が定める。

球磨郡公立多良木病院

所在地：〒868-0501

熊本県球磨郡多良木町

大字多良木4210

連絡先：0966-42-2560

FAX：0966-42-6788

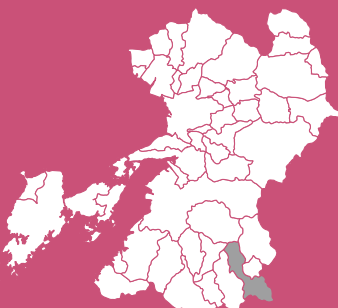
熊本県多良木町

総人口：11,299人

高齢化率：32.0%

世帯数：3,880世帯

総面積：165.87 km²



取組のきっかけ

へき地医療支援機構事務局の設置

このような状況の下、県が「第9次へき地保健医療計画(厚労省)」を踏まえて「熊本県へき地保健医療計画」を策定した。この計画に基づいて平成15年、多良木病院を含め県内3ヶ所の公立病院が熊本県の「へき地医療拠点病院」として指定され、多良木病院に「熊本県へき地医療支援機構」の事務局が設置された。

支援機構ではへき地医療支援計画会議や拠点病院連絡会議を通して、へき地拠点病院への医師派遣の要請や巡回診療、へき地医療従事者に対する研修計画・プログラムの作成に関する事業等が行われ、へき地での医療機能の充足に努めている。

熊本県へき地医療拠点病院
(A) 上天草市立天草総合病院
(B) 都山町立国民健康保険蘇陽病院
(C) 球磨郡公立多良木病院





取組と成果

へき地医療機能の確保と医師不足対策

取組 1

へき地への訪問診療及び代診医の派遣

病気や研修で医師が不在になったへき地診療所に、へき地支援機構事務局を通じて代診医を派遣するとともに、週に数回、2つのへき地診療所に訪問を含めた外来診療を行っている。

取組 2

へき地医療先進地の視察等

へき地・離島医療で実績のある長崎県離島・へき地医療支援センターの視察調査を行った。また、熊本県では診療所勤務医師を対象としたへき地診療所アンケート調査を実施し、へき地医療に関する活動の改善に努めている。

取組 3

積極的な広報活動

へき地医療支援機構及び多良木病院自身のホームページの作成を専門の業者に依頼したり、瓦版を発行することによって活動の内容を積極的にアピールしている。

取組 4

へき地医療に従事する医師への 研修会等の企画・実施

当機構では、へき地に従事する医師に対して、必要な専門的技術に関する研修プログラムの作成を行い、研修会を開催している。熊本県下の診療所スタッフが集まり、自主的な研修会や講演会を企画・運営し、知識の蓄積や情報の交換を図っている。



熊本県多良木町

課題2 山村集落での生活機能の維持・確保

成果

へき地診療の確保

診療所に常勤医師のいない地域において、定期的な訪問診療を行うことで、通院の足のない高齢者でも診察を受けることができるようになってきている。

町の国保医療費減

地域ごとの保健師と連携して検診に力を入れており、多良木町全体の医療費は、退職者を除くと、若者層及び老人層で近年減少傾向にある。

入職希望者の確保

確実で信頼のある診療内容と業務実績やホームページによる情報提供が好印象を与えるなど、へき地の病院にもかかわらず毎年2～3名の研修医が採用を希望している。

各賞の受賞

- 平成9年：自治体立優良病院自治大臣賞
- 平成19年：厚生労働大臣賞
- 平成21年：地域医療貢献奨励賞
(住友生命社会福祉事業団)

多良木町属性別医療費の推移

